

第 5 回 九重町立小学校のあり方検討委員会 会議録

日 時	令和 8 年 3 月 27 日(金) 18:30~20:00
場 所	九重町役場 3 階 301 会議室
出席者	委員 13 名、教育長、事務局 5 名
欠席者	委員 5 名

内 容
<p>1 開 会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 経過報告</p> <p><議事></p> <p>4 内容検討 (前回までの会議の振り返りおよび今回の会議で検討する内容の説明)</p> <p style="margin-left: 2em;">■意見書(案)内容説明 ~質問・意見等確認~</p> <p>5 その他 ・意見書提出について</p> <p>6 閉 会</p>
意見
<p>意見①:「2 魅力ある学校づくりについて」では、これまでの話し合いの内容が活かされていると思う。「地域との連携による特色ある教育の推進」の中にある「このような小規模校ならではの魅力を外部へ発信することで、選ばれる学校として人口流入を図る攻めの姿勢も必要と考えます。」の文中の「攻めの姿勢」というのが具体的にどういうものを指すのかを示せばいい。</p> <p>委員長:その部分の表現を変更してほしいという事でいいか。</p> <p>意見②:文章から児童が地域と密着すべきだ、という思いが伝わってきて良いと思う。全体的に全 5 回の話し合いが反映されている内容だと思う。</p> <p>意見③:この会に参加したのは、今後児童数が減っていくことに不安を感じていたから。しかし、この会の中で横のつながりや、地域のつながりのことについて意見がでて、(意見書の中身にもそれを)書いているので良かった。安心した。</p> <p>意見④:児童数が少ないとすぐに合併・統合で話が進むのではないかと不安だったが、そうではなくて良かった。付帯意見として、「まずは教育委員会であらゆる可能性を含めた調査・研究を開始するよう」とあるように調査し、将来的なことを考える必要はあるものの、地域に学校は必要なので、できるだけ 6 校維持を頑張ってもらいたい。</p>

意見⑤：付帯の部分の「まず教育委員会であらゆる可能性を含めた調査・研究を開始するよう」について、この文言を議員さん等が見ると、すぐに「統合」という話になりそうなのが不安。すぐに統合ということではなく、このような会を設けて、色々な可能性を考えていけるといい。そのような内容を付け加えてほしい。

意見⑥：九重町内の保護者・教育委員会だけの研究ではなく、九重町内の保護者・地域の人等、色々な立場の人が集まって話が出来ると良い。広く皆さんの意見を聞きながら、調査研究が必要だという表現にしてほしい。

意見⑦：意見書を読んで、それぞれの地域の方が自分の地域を愛しているなど感じた。だからこそ、地区同士のつながりもあると感じている。教職員として、地域それぞれの特色があるので、それを教職員自身が感じ、学ぶことが必要だと思った。学習するための研修を設ける必要がある。具体的に6校がどのようにつながっていくかを考え、示していく必要がある。

意見⑧：自分は九重出身ではない。子どもが小学校に入ったときに同級生が8人ということに驚いたが、今は安心している。会に参加して、地域や役場や色々な人が子どもたちのために考えてくれているということが感じられて良かった。意見書はまた地域の方にもお知らせするという事なので、これを色々な方に読んでもらって「九重町に住む沢山の人が子どもたちのことを考えている」ということを広めてほしい。

意見⑨：「持続可能な地域連携」の中で、今年の卒業生は入学式が遅れた世代が卒業した。この世代からはコロナ禍で時代的にいろいろな制限があった世代。話を聞くと、保護者の交流（PTAの活動や懇親会など）が少なく正直「ほっとした」という意見があったし、つながりが薄れたと感じている。PTAなどの行事が多く、昔は出事が多すぎて家庭が疲弊していた。今の時代、ハラスメントなどで教員と家庭、また家庭同士の連携が取りにくい。自分はあと2年しかいられない、そうなるにつなかりはどうなるのだろうか？と不安がある。（PTA活動などうまく機能するのか？教職員と家庭のつながりはどうなるのか？）今後、連携の方法についても考えていく必要があると感じる。

意見⑩：内容に関して意見は特にありません。よくまとめてくださっている。一点気になるのは、「自己肯定感を高める」という表現をよく使っているが、「自信をもって主張する」ということに対して、一定の評価は出来るが、間違った捉え方をしている人も増えていると思う。昔の日本人にあった「謙虚さ」がなくなっている気がする。主張を悪く捉え、「傲慢な主張」が出てきているような気がする。だから、既に一定の成果は出ていると思うので、この表現を控えめにしてもいいのではないかな？

意見⑪：私は2回しか出席していないので、意見を言える立場ではないが、5回の会議を通して、皆さんの意見が反映されていると思う。自分は積極的に地域に関わってきたつもり。ゲストティーチャーとして、自分が何か出来るわけではないが、このような会議に参加することで、今後も自分なりに協力していきたいと思うし、自分と同世代にも広げたい。

意見⑫：意見書は分かりやすく表現されていると思う。育成協議会の一員として長年子どもと関わってきたが、昔と比較して子どもが少なくなっているのは事実。でも、今の子どもたちは少ないながらも、楽しみを見つけ、明るく楽しく過ごしていると思う。ただ、今後の不安（R14には今の半分程度の児童数になること）について、数字だけで表してしまうと不安だけが先行するのではないか？今後も見守っていく必要があると感じた。

委員長：本日皆さんから頂いた意見を意見書に反映したい。現時点で考えられることは盛り込まれているのではないかと思うので、この意見書の趣旨は変えずに文言や表現の修正になるため、私と副委員長、事務局にお任せいただいてよいか。

委員全員：よい。

意見⑬：私達は「地域から学校がなくなると過疎化が進む」ということから山村留学を始めた。留学で（野矢に）来た子を見ると、数カ月で生き生きと過ごしている姿を見られた。飯田の高原留学の主催の方に話を聞いたが、「子どものことを考えて」実施しているということだった。子ども・地域・学校が連携して考えていく必要がある。自分たちの地域の子は自分たちの地域で育てることが必要。